

---

# 死神達の恋歌 ～月の導き～

yatenyue

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神達の恋歌 ～月の導き～

### 【Nコード】

N1849Z

### 【作者名】

yatenyue

### 【あらすじ】

精霊術師のうち炎術師であった彼女・雛桜美月は、中学一年生13歳の春、5月に死んだ。

こちらは、ソールンサイティ尸魂界サイドです。

太陽の方が現世サイド。

で彼女の双子妹・雛桜卯月です。

力は最強、ですが精神的に弱め。

ととっても普通よりは強いです

過去の世界すべての前世の記憶を持ちます。

冬獅郎×ヒロインです。(私自身は、彼女がいなければ日夏派です)

月、太陽 共通プロローグ(前書き)

月、太陽両方共通です

## 月、太陽 共通プロローグ

私は

私の姉の美月は

あの日 死んだ

《零番隊隊長、兼元十番隊第三席副官補佐》

雛桜美月

M i t s u k i H i n a z a k u r a

最も辛き運命サダメを持つ者

「日番谷隊長には、桃ちゃんがいるし勘違い

すれ違い

「大好きっっ」

「消えて」

「・・・仕方ないよ。

冬獅郎にとって、桃ちゃんは、姉か妹みたいなんだと思うから。」

垣間見たのは、柔らかな微笑

「絶対、ルキアは助けてあげるから。」

何度 別れてもなんで私は、恋をしてしまうんだろう？

大きな罪を私は、背負っているのに。

「・・・卯月が私に・・・？」  
贖しよく罪ざい？

「よくも冬獅郎を藍染つ！！」

紅アカと赫アカと朱アカを纏い、

哀アイと愛アイとに満ちる

心優しき少女

「嘘・・・でしょ。卯月が消滅キエするなんて！！」

これが 罰 ？

哀しくも愛しい そして

残酷な 物語が 今紡がれる

それはまるで影のように

美月は満月キムツキのように。

《十番隊隊長》

日番谷冬獅郎

Toushiro Hitsugaya

氷と雪を操る炎の対。

美月の第一印象は、抜けたヤツ。

第2印象は、失礼なヤツ。

第3印象は、可愛いヤツだった。

気が着けば、美月を目で追っている自分がいた。

松本のヤツにからかわれても、否定できなかつた。

「俺は、お前が好きだ。」

あいつは、いつも自分のことより、他人のことばかり考えていた。

良く言えば、優しい。

だが、

悪く言えば、自分を軽く見ていた。

儂い。

強いが、弱い。

だからこそ思ったんだ。

護ってやりたいと。

今まであいつに会うまで、護りたいヤツは雛森だけだった。

俺にとって姉であり、妹であったから。

でも今は、できるならば美月の笑顔と心

そして欲張りかもしれないが、

雛森のことも護ってやりたい。

そう思うんだ。

「雛森に血イ流させたら、  
俺がお前を殺す。」

血を流す雛森

涙を流す美月

血を流し倒れる俺にすがりつく美月

もっと、強くなりたい

消え行く意識の中



感じたのは、暖かな炎。

《水術師》

雛桜卯月

U d u k i = H i n a z a k u r a

血の呪いを受け継ぐ者

「私のせいだ。」

モリコロ  
白黒の世界。

姉の残した詩。

いつだって、私の心を救うのは、

あの子 なんだ。

たくさん友達。

美月が死んで3年経っても、なお気にし続けた。

そして、

知らなかった周りの人々の思い。

嬉しかった。

でも、やっぱり逢いたいから。

ルキアもだけど、私の1番はやっぱり美月 なんだ。

そんな私が1番キライ。

皆傷だらけ。なのに私は無傷

美月は重傷。なのに私は護られ無傷。

「私が・・・消滅<sup>キエ</sup>する？」 聞いた時

生きたいという思いと、

やっと死ねるといふ思い。 2つ の矛盾した思いが胸に満ちた。

絶望への序章が  
始まる。

黒崎 一護

Ichigo = Kurosaki

朽木 ルキア

Rukia = Kuchiki

井上 織姫

Orihime = Inoue

茶渡 泰虎

Yasutora = Sado

有沢竜貴

T a t s u k i 〓 A r i s a w a

小島 水色

M i z u i r o 〓 K o j i m a

浅野 啓吾

K e i g o 〓 A s a n o

卯月の

理解者達

そして・・・

クインシー  
《滅却師》

石田 雨竜

U r y u u 〓 I s h i d a

救済者

「自分だけが不幸・・・？笑わせんな」

そう君は一蹴したね。

今までの僕の価値観を

だから、僕も言わせてもらう。

「罪？そんなの関係ないだろう。

君は逃げているだけだ。」 君を傷つけるかもしれない でも、

何も関係がなかったからこそ救える

《零番隊二席兼元四番隊三席》

大道寺 皐月

S a t s u k i 〓 D a i d o u j i

共有者 優しき毒舌者

悟る者

あの子達は、本当に溜め込むのが好きですわね。

率直な優しさは、人を救うこともありますが、

逆にそれが苦しくなることだってあるんです。

本当に見て居られない、太陽と月

「馬鹿ですわね。そんなことで迷うなんて」

「あなたは、思う通りにやればいいんです。」

「少しは頼りなさい。馬鹿娘ども。」

言葉・・・

いつも、キツイ言葉である・・・不器用な

でもそれは常に真を指している。

全てを認めている者。

《零番隊四席兼元二番隊三席》

神無月 由宇

Yuu Kanaduki

共有者

愛を拒絶する者

愛は、破滅への序曲。

アタシは、そう思わなきゃやっていけなかった。

・・・自分の想いも分からず、愛を知らず、走り続ける者・・・

でもあの子達には、幸せになって欲しいから。

「アタシは、そういうの分かんないけど、あんたは違つてしょ。」

「まあ、いいけど」

「イツル、どうしたの？」

アタシは、自分の気持ちが

安堵の理由が

ワカラナイ

零番隊副隊長兼元二番隊副隊長

如月 海依

K i s a r a g i i K a i

共有者

信じようとする者

何度裏切られても、

人とは汚いものだと思っていても、

信じられようとし、

「どんなことがあつたつて俺は俺だから。碎蜂、お前だけは俺を信じて下さい。」 大切な人

「信じるに決まっているだろうが」

また、信じようとする。

・・・男とも女ともとれない、不思議な者・・・

俺はさ、人間って弱くて醜いものだって知っている。でも、それを知った上で、

俺は信じたいんだ。

それに、俺は、この手にあるもの全てを護りたい。

俺が私（＝女、弱さ）を棄てた代わりに。

美月達？

あいつらもだよ。

あいつらは、あの時から罪だ っ て気にしている。

そんなの気にしないでいいのにな。

俺や臯月達が言っても聞きゃしない。

あいつらは、力は強い。

最強って言うてもいいくらいにな。（俺もだけど 自慢）

でも、心の一部分が酷く弱い。

失うことを恐れている。

だから俺はあいつらを支える。

ただそれだけだ。

そして

「私は、彼のために強くなるの。」

《零番隊七席兼元十二番隊三席》

神代 魅

M i r u = K a n e s i r o

改造された身体の持ち主

「たとえ私を思ってくれなくても  
彼が幸せならそれでいいの」

「俺は、あいつのために強くなっただ。」

《零番隊六席兼元十一番隊四席》

須王 修宇

S y u u u = S u o u

強さを求める者

「俺が本当に思っているのは  
誰なんだ？」

すれ違う2人

「僕は、あなたに会いたくて、死神になっただです。」

《零番隊八席》

那智 葵

A o i = N a c h i

美月を尊敬する者

そして、血縁者

「僕に何ができるか



わかりませんが  
僕は僕にできることをやるだけです」

「何もしないって、性に合わないし」

《六番隊三席》

佐野 明良

Akira = Sano

美月と同じ血を持つ者

そして 崇拜者

「あなたはあなたにできることを  
すればいいの。俺はあなたを否定しませんよ」

《零番隊五席兼元六番隊副隊長》

青木 輝

Hikaru = Aoki

愛に裏切られ、心を美月に救われた者  
そして

裏切り者

残されたのは 1枚の手紙

「だいつきらいな人間を

もう一度信じたいと

おもったのは  
美月隊長のおかげです」

さあ紡がれ始めるは、愛しくも、残酷な物語。

プロローグ 始まりの時(前書き)

目の前には大虚<sup>メソス</sup>

こんなことになるなんて

思いもしなかった

## プロローグ 始まりの時

私はいつものように、

一護に虚が近付かないように、

一護から離れてからいつもは零の状態にしてある霊圧を

少し放出した。

いつもと違う所といったらいつも一緒の双子の妹、卯月がいない。

ただそれだけ。

いつものように雑魚だけかと思っていた。

なのに、突然の後ろからの攻撃…

私の腹を貫いていたのは

大虚の舌。

一体だけ混ざっていた、新種の霊圧を消すタイプの大虚だった。

私の魂は、あつという間に肉体から引き離されてしまった。  
カラダ

(ちっ。今日に限ってっ。

卯月がいれば、苦勞せず気を引いてもらって

その隙に肉体に戻るのに…

卯月は狙われたりしてないよね。

因果の鎖はまだ切れてないし、

早く肉体へ…)

魂から10?離れた肉体へとまず行こうと

考えている間に、

視線が大虚にいつていたせいで

他の残っていた雑魚が

私の鎖を

踏みちぎれた。

（もうダメかな。

卯月には一護がイル。）

そう考え、霊体状態の私は朱い瞳を閉じようとした

その時、

強い冷気のような霊圧を肌で感じ、

閉じかけた眼を開けると

瞳に入ったのは

銀の髪をもつ死神。

その死神は一刀で大虚を倒し、周りの雑魚達を片付けていく。

全て片付け終えた彼が、私に近づき、言う。

「大丈夫か？」

「まったく、こんな所で霊圧を流すなんて何考えてるんだ、お前は　って人の話聞いてんのか！！」

「おいっ」

ほうけていた私は、正気を取り戻す。

不覚にも私はその死神に見とれていた。

私は赤くなつた顔を隠して答えた。

「はっはい」

はっきりいってマヌケ極まりない。

その死神ははあ…とため息をつくど、急に真剣な顔になって言う。

エメラルドのような翡翠色の瞳が私を一瞬硬直させる。

「お前、俺が見えるのに俺の服装見て、何も思わないんだな。」

俺以外にこんな服のヤツ見たことあるのか？」

私はこの言葉を聞いて

私の男に対する態度にしてはなんの警戒も持たず、  
ありのままの事実を言った。

「へ、だって死神でしょ。」

ある程度霊圧あれば見えるの当たり前でしょ。」

彼は、呆れたような顔になって、  
こう言った。

「死神が見える人間なんか聞いたことねえーよ  
勝手に決め付けんな！」

私はその言葉を聞いてそういえばそうだった  
と思った。

でも



「あ、周り一族とか見えるから忘れてた」

「そーかよ。(でも何故こんなに霊圧が低いんだ)

お前名前は？」

霊圧を少ししか出していない状態のままでは彼の質問に答えた。

「私は 雛桜美月 です。あなたは？」

「雛桜か  
俺の名前は日番谷冬獅郎だ」

それは  
私という一人の人間の死という終わりと

新たな世界や思いの始まりだった。

しとしとと降るのは雨

それは遺された体を濡らし、

血を洗い流していった。

**用語説明 精霊術師とはなど（前書き）**

太陽と共通です

## 用語説明 精霊術師とはなど

精霊術師とは

精霊術師

精霊の力を借り、魔を滅ぼす者ら。

そもそも

約千年前5人の若者が、五行を司る神と誓約（自らの誓い）と契約（血を次ぐ者に力を）を結び、代々続いてきた。

その直系は

炎の精霊を操る炎術師の家系 / 雛桜家

地の精霊を操る地術師の家系 / 大道寺家

風の精霊を操る風術師の家系 / 如月家

雷の精霊を操る雷術師の家系 / 神無月家

水の精霊を操る水術師の家系 / 神名家

だったが、

80年ほど前に現世では

神名家は滅びた

また分家は無数にあるため直系の1人が、宗主として術師の上に立つ。

またそれぞれの属性の精霊の加護を受けているため

それぞれの属性のものでは影響を受けず、同じ術師でかつ実力が上の同属性は効く。

また 人それぞれ 周期も 月齢も 違うが力や霊力が不安定になる日が

炎術師だと、満月周辺

水術師だと、新月周辺

地術師だと、満月寄りの半月

風術師だと、三日月

雷術師だと、半月

力が 弱すぎる人と強すぎる人が頻度が多い

まあ 多くても1年に1、2度

超越者とは・・・

あらゆる次元において神に認められ力を借り受けることを認められたをさす。

その数は今この世界に片手しか存在していない

美月の生家、雛桜家ははるか1000年ほど昔、神獣・朱雀と契約した超越者の血を継ぐ家系である。

いやそれだけではない、ほかの4家、

水の神名家は、神獣・玄武との

地の大道寺家は、神獣・白虎との

雷の神無月家は、神獣・青龍との

風の如月家は、神獣・黄龍との

超越者の血を引く。

それを一族は始祖と呼んでいる（名前は伝わっていないが、5人

は知っている)

精霊術師の家系の戸籍について

はっきりいって作られています、関係者以外閲覧不可だし  
たとえ天皇でも見ることは叶いません。

だから

死後であろうと気づかれずに仕事ができるのです

雛桜家

炎術師直系

一番直系に近い分家としては佐野家があげられる。

炎だけは

明確に等級づけされていて普通の炎>黄金の炎(浄化の炎)>神炎

神炎とは、

自らの霊気を織り込んだ最高峰の炎で

いままでには美月を入れても10に満たない。

美月の神炎は

朱金色で

太陽のようなことから

紅炎またの名をプロミネンスと呼んでいる。

神名家

影の五代天皇家の一つ。

(他は炎術師の雛桜、雷術師の神無月、地術師の大道寺、風術師の如月)

水術師の本家。

80年程前現世では滅びた。尺魂界では元四大貴族で33年前滅びたとされる。

代々零番隊隊長を宗主が勤める。

美月達の母が元零番隊隊長神名葉月

高確率で双子が生まれ、二人は引き離されて育てられる。



というのも、神名家はある呪いを受け継ぎ、その呪いに対抗するために、術を用い、双子の片方が呪いを受け継ぐようにした。

二人の母である葉月は、二つにわかれた受精卵が結合し1人で生まれてきたので呪いを受け継いでいた。

呪いや神名家に伝わる刀については未来編最終ページにて

瞳の色について

炎術師の名家「雛桜」及び分家では、一番強いのが濃い朱。で暖色系が多く、橙や赤紫、ピンクなどで占められている。

雷術師の名家「神無月」及び分家では、一番強い力の持ち主は金、他は明るい茶色や、オレンジ等がもっぱら

水術師の名家「神名」及び分家では、藍色もしくは紺色で、藍色のほうが強力。濃い青系です。

風術師の名家「如月」他分家では、水色が一番力が強いほうで、より透き通ったほうが力が強い。ほかは薄い灰色や茶色

地術師の名家「大道寺」および分家は、濃い茶色やオレンジ、少ないが緑である。

緑が一番強いといわれている

## 葬儀の違い

精霊術師の家系は葬儀屋とかは呼ばないし、お墓も作りません。

一族ごとに決まっけていて

自らの仕える神の御元へと還るため

風術師は本家地下にある風の力が溢れる微生物の一匹もない部屋に死体が朽ちるまで（風化）

地術師は本家地下に半分弱埋められて、地に還るまで水術師と同じ一族のものに作られた氷の中へ葬られ

雷術師は一族が絶えず、力を注いだ雷の間で

炎術師は本家地下の炎の間で

どの葬方も肉体に宿る血の力がなくなるまで死したときそのまま腐敗もしない

（どこも微生物がないし存在できない）のため1ヶ月でなくなる人もいるし

逆に十数年かかる人もいるちなみに明良を含めた美月達は未だ変化一つない

多分明良は分家ながら強かったのであと十年は美月達は歴代最高だし、前世に始祖がいるので

数百年単位必要かもというかいる。ちなみに始祖はまだ残ってる。

だって仮に火葬するとして炎術師なら死んですぐは燃えないし、水術師なら燻るし、地術師は足が地についていたらすぐ燃えても治るし、風術師はなんかありえないことに空気の膜で覆われるし

困らないの雷術師のみ

ちよーつと不自然に静電気発生するけど（全然大丈夫じゃないってー）

単語説明 出てくるたび更新予定

怨霊

ギリギリ虚ではない

かなりのレベルになると自分自身が虚になるのを

無意識に避けている

また魂葬も簡単でなく、下手な虚より達がわるい

が 虚のようにリーダーに反応がないため

100% 生者の術師等に倒される。

登場人物 その1 月ヒロイン 雛桜 美月(前書き)

イラストはサイト内にあります ここにはありません

登場人物 その1 月ヒロイン 雛桜 美月

原作の年（一護が高一）は2007年とする

雛桜美月

1991・4・3生まれ

享年13歳

炎術師の家系の直系

雛桜家の長女であり、卯月の双子の姉。

13歳の5月末、虚との戦闘で死亡

その時 十番隊隊長日番谷冬獅郎に助けられる

その後すぐ斬魄刀を生み出し、死神として働くことになる。

その時は十番隊三席。

その後同年12月、卍解が使えることがばれ

零番隊（正式名御廷十三<sup>レイ</sup>隊直属特別部隊零番隊）隊長となる

霊気の色：朱金

生前の髪の色：黒

今の髪の色：朱

瞳の色：朱

身長：145？

体重：30？

血液型：A型

相手：日番谷冬獅郎

詳しいことは第四章で話すが前世の記憶があり

その記憶のためか、過度に周りが傷付くの良しとしない

鋼や狩人（同姓同名）、復活（水無月楓）連載ででてくる主人公は、  
パラレルワールドの彼女。

詳しい前世はかなしき物語で

またパラレルワールドの自分との記憶は共有している

前世の罪で

時間と空間の扉の守護者

になっている

斬魄刀

? 朱夏シユカ

始解：炎よ散れ朱夏

刀が炎を纏い、炎を操る

卍解：卍解カリンズザク火輪朱雀

七星の力を使う。

朱金の炎を放つ大きな朱雀が現れる

鬼宿タマホメ：レーザー状の炎（黄色）

柳宿ヌリコ：炎の球

星宿ホトトリ：炎の刀

翼宿タスキ：鞭状の炎



軫宿<sup>ミツカケ</sup>：幻炎（紫）

井宿<sup>チチリ</sup>：盾の炎（白）

張宿<sup>チリコ</sup>：空間を断つ炎（青白）

元々は美月の守護精霊

具現化：緋色の中国風の服を着た美月によく似た10程朱髪朱瞳（美月より薄い）の少女で口調が古式。

中国で南を守護するという神・朱雀。

炎を司り、雛桜家に力を与えた張本人。

「我はお主の言葉に従う。ただそれだけだ」

つかは羽のような形。

卯月の斬魄刀藍珠の対

? 癒宇<sup>イウ</sup>

始解：癒せ、癒宇

青白い光で癒す。内部を治す時、刺した方が治る。

卍解：○？（里）以内の全ての人を治せ、卍解治癒空間

完全治すには長時間必要

薄い朱い霧にその空間が覆われる。

具現化：白に近い銀髪に碧瞳の女で背中に片翼

元戦いと癒しと愛を司る大天使。

「もし自分が死ねば皆が助かるなら貴女はどうしますか？」

つかがない懐サイズの刀

持つ所には「癒」の字

サブ主人公その2の皐月の斬魄刀宇紀癒の対

？ 刹那 セツナ

始解：血に飢える、刹那

刀身が血色に染まる

キーワード「切り刻め」ということで刺した対象を木っ端みじんに

卍解：血を浴び、悪夢を見せろ、卍解永遠ノ悪夢

昏い空間に傷付けた敵を閉じ込め、精神が壊れる

もしくは美月の許可を得るまで出られない

両刃の剣で、揺るぎない殺す覚悟を持たないと

美月自身が傷付く。

具現化：黒髪緋瞳の男で全身黒づくめ。

ひどく好戦的で戦闘狂に近い

左目に大きな傷跡がある

「人を殺す覚悟お前にあるか？」

黒の柄から白い布がでている。

朱夏以上斬月未満の長さ

卯月の斬魄刀琥珀の対で、神名家に伝わる宝剣の1つ

## その他

誰にでも愛される子恋愛ごとには涙もろい。

しかし、意志が強く、喜怒哀楽の激しい子。

しかし自分の恋にはうとい。

いくらつらい目に遭おうとも人を愛せる。

が若干男が苦手。(えっ)

(これは本人達しか知らないことだが、異母兄・響「父の前妻の子」により、小学4年から6年の中頃まで性的虐待を受けていたしかも兄1人だけではない)

彼女本人もショックと兄の術で忘れていたが、心の奥底や体が覚えているし、日記で見知っている。

10までは前世の記憶はうっすらとだけだったが、皮肉にも上をきっかけに全てを思い出す。

IQ300以上の持ち主で  
アメリカのハーバード大学の理数科と医学部の終了資格をわずか6歳の時半年で取っている。

イメージは赤薔薇か桜。

また12までピアニスト兼作詞作曲家”ナナ”として名を挙げる

左手にガーネットでできたブレスエットをしていて  
これが霊圧制御装置  
8割を封じ込める

だが残り2割の状態でも  
隊長格の1・2倍の霊圧

つまり

全霊圧は隊長格6人分  
しかし霊圧制御装置をつける原因は  
体が耐えられないため。

また、完全に霊圧を解放すると  
額に朱雀の刻印が浮かび上がる。

登場人物 その2 太陽ヒロイン 雛桜 卯月

原作の年（一護が高一）は2007年とする

雛桜卯月

1991.4.4生まれ

現在16（原作初期時） 18（死神代行消失編）

空座高校1年3組 3年（石田と同じクラス）

一護とはクラスメイトで小学校からの友人

様々な武道大会で優勝していて、

一護やチャドより

100倍強い。（死神前段階で）

雛桜家の次女で次期宗主。（20代め）

月ヒロイン美月の双子の妹

姉が死んだのは自分のせいだという自責の念を抱き、また魂の無事を信じたいと思っている

霊気の色：藍碧の霊気

髪の色：（通常）黒色

（霊体）藍色

瞳の色：藍色の瞳だがカラーコンタクトで茶色にしている

身長：160？

体重：40？

血液型：A型

相手：石田雨竜

美月、サブ主人公3人組とかかわりの深い切っても切れない前世の絆を持つがまだその記憶を取り戻していなくて

第二章中

少しずつ思い出していく。

パラレルワールドの記憶の共有は完全に思い出した後

霊界の扉の守護者

斬魄刀

?  
アイジュ  
藍珠

始解：水氷に舞え、藍珠

水のように様々な武器に変化する

卍解：卍解玄武水氷陣珠

水の玄武が出現して、水の球を操る

凍結（水色）

变幻自在（透明）

癒し（白）

幻（緑）

溶解（黄）

もちろん普通の水の球あり

卯月の現守護精霊



具現化

藍色の中国風の服を着た卯月に顔立ちのよく似た藍髪藍瞳少女

中国で北を守護する神・玄武。

神名家に力を授けた張本人やはり古式な口調

「お主は一体どうしたいのじゃ」

外見

つかが雨粒の形

長さは朱夏と同じくらい

美月の斬魄刀：朱夏と対である

?琥珀

始解卍解ともに不明　まだきめてない（決め次第更新）

具現化

ぴちぴちピッチのミケルそのまんま

蒼翠とも彼女に言われる。

碧銀の髪に紫の瞳

外見は刹那と正反対で白い刀身柄で柄からでる布は黒  
長さは小太刀コダチ

美月の斬魄刀：刹那と対である

その他

裏表がある子。

（4人よりも）自分のことはどうでもよく、自分のせいで誰かが傷つくのを恐れる。

恋愛対象として男はあまり好きではなく、（女が好きと言うわけではなし）ナンパ男への対応が1番酷い。

完全に思い出すのは、2章中だったりする。

IQ200

ハーバード大学なかつたらごめんなさい体育科をトップで卒業かつ体育の国際教員免許を8

歳で半年取った。

美月とともにコンクールで何度も優勝。

”ナナ”の双子の妹”ナミ”ヴァイオリニストで歌も少々。

現在は歌手を波音<sup>ハレン</sup>として。

イメージは水仙か蓮

蒼いサファイアでできたブレスレットと髪飾りをつけていて  
それは霊圧制御装置。

これにより8割強の霊圧が封じ込められている

完全に封じた霊圧を解放すると

右手の甲に玄武の刻印が浮かび上がる

紹介はまだまだ続く… 長い

**登場人物 その3 サブ主人公 3人衆（前書き）**

姉御肌で、胸でかめな、派手系美人なサブ主人公1

毒舌敬語系、大和撫子系なサブ主人公2

兄貴系中性的美人なサブ主人公3  
です。

**登場人物 その3 サブ主人公 3人衆**

サブ主人公その1

神無月由宇

享年15

1987・10・10生まれ

元三番隊三席  
現零番隊四席

姐御肌な性格で  
男女にもてる。

霊気の色：黄色がかった白金・金色

髪の色：（今）金色  
（生前）金茶

瞳の色：金

身長：165?

体重：45kg

血液型：O型

相手：吉良イズル

主人公と同じ

死んだとき前世を全て思いだした

魔界の扉の守護者

斬魄刀

?雷霸

始解：雷をあげる、雷霸

外見変化せず、雷を操る

卍解：四方よりまじわれ、卍解青龍雷輪

青白い電気をまとい金の光を放つ青龍が現れる  
始解のパワーアップ

元由宇の守護精霊

具現化

金髪金瞳の黄色を基本にしたミニスカ中華服を着た10程の由宇に似た少女

中国で東を守護する神・青龍

「いこうかの由宇」

迅雷の方が短い

迅雷とは対

?迅雷

始解：集え、迅雷

外見変化なし、雷霸より弱く、微妙な調節にたけている。

卍解：卍解紫電一閃

雷をまとう鳥雷鳥が現れ、その羽根は当たるだけで大ダメージ。

始解のパワーアップ

由宇の元守護精霊

元を正せば、異母兄・日向陽ひゅうが ひなたの守護精霊。

具現化

20くらいに見える蒼銀色の髪に金色の瞳の男性。

「ちゃっちゃと終わらせよう主」

雷覇とは対

雷覇の方が長い

その他

公私を分けている

零番隊の苦勞人。

イメージは黄薔薇か向日葵。

愛って何かわかっていながら心がそれを認めない

天才若手女優”唯”。



12〜25までの役を10の時から。

出演したものはどれも好評

話題の名作”朧月夜”での幽霊”アリサ”役や

”天使のつばさ”では第一シリーズでは妹の聖良、第二シリーズでは姉の怜良等5年前のデビュー当初から  
天才子役の名も期待の若手の名も様々な声も総なめになっている。

政略結婚な両親で父親も母親も愛人作っているし、夜遊びはするは、  
な最低ども

兄弟仲は最悪

全員片親違い。

名字は一緒だから、怪しまれないよう別々の学校に通ってたけどさ  
名前なんて全然気にしなくてもいいよ

一番年上なのが12歳も年上の異母兄・充<sup>ミッル</sup>

次に10年上の異母姉・艶香<sup>ヨツカ</sup>

つづいて

5つ上の双子の異母兄、実と旬<sup>ミフル シュン</sup>

でこの後に生まれたのが

由宇

由宇だけがこの夫婦本来の子

悲慘  
由宇が生まれた後はもうこの夫婦離婚してないだけでももう悲慘

上の兄妹みんな母親違う

で下に

2歳下の異兄妹・愛

4歳下の異兄妹・恋

6歳下の異母妹・絵依

6歳下の異兄妹・憂<sup>ウイ</sup>

8歳下の異母弟・昭夫<sup>アキオ</sup>

9歳下の異父弟・治

10歳下の異母弟・昭継

12歳下の異父弟・健

母親が生んだのは全員認知せざる得なかったけど、

父親はそこらじゅうで種撒き散らしてたらしい(下品ですまん)

霊圧制御装置は、シルバーアクセの  
ブレスエット  
左手につけていて、完全霊圧解放すると、左腕に青龍が浮かび上がる。

サブ主人公その2

大道寺 皇月

享年16

1987・5・5生まれ

元四番隊三席

現零番隊三席

毒舌腹黒ですか

言うことは正しく、実は優しいお姉様

霊気の色：白がかった緑

髪の色：（今）碧

（生前）茶

瞳の色：緑

身長：160？

体重：43kg

血液型：B型

相手：檜佐木 修兵

主人公と同じ

しんだ時に思い出した

天界の扉の守護者

斬魄刀

？花音

始解：惑わせ、花音

卍解：咲き誇れ、幻音を聞かせよ、うつつね卍解白虎百花繚乱  
土の力や植物の力を使う

花の香りを使い、さまざまな効果のある香りや、薬を作ること  
も可能。

皐月の元守護精霊。

具現化

碧瞳碧髪の皐月にそっくりの外見だが毒舌は控えめな10程の少女。

中国で西を守護する神・白虎。

「何してるのさっさと行きますよ皐月」

柄に飾りひもがついていて始解の時緑にかわる。

海依の斬魂刀：地生の対

? 宇紀癒

始解：力を与えよ、宇紀癒

卍解：命の息吹を、卍解昇天癒紀

ともに癒宇と違い、体の傷を治すのではなく、霊力を回復させる。

(自分の霊力を相手のに変換)

卍解では、満遍なくだが、1人1人に対しては、始解のパワーより  
ダウン気味

具現化

黒髪碧瞳の癒宇にそっくりな少年。

同じく片翼を持ち、元癒しを司り天界の番人補佐であった天使（  
皐月の部下）

「また貴女と戦えるなんて光栄です皐月様」

西洋風の普通のサイズの刀

癒宇の対

その他

腹黒、毒舌、敬語キャラ。

だが優しく、少し弱い。大人。

人は汚いものだと悟っている。

間違いなく男を尻に引くタイプ。

美月達のお姉さんかお母さんみたいな。

冷静に見えるが、激情家

イメージ大樹か薔薇の棘

裁縫等がとても上手く、料理に至っては若干12歳でプロの料理人の資格を取り、

和洋中伊等を幅広く着手していてまた日本一の高級旅館>梓弓<の女将：月夜として働いていた。

霊圧制御装置は首の十字のネックレス

完全霊圧解放すると、胸元に白虎が浮かび上がる。

サブ主人公その3

如月海依

享年15

1988・2・2生まれ

元二番隊副隊長

現零番隊副隊長

男前で中性的

髪が長いのに女物以外着ていると男に間違われる

もしくはどっちと言われる

靈気の色：碧や水色がかった銀

髪の色：（今）銀

（生前）黒

瞳の色：水色

身長：170？

体重：47kg

血液型：AB型

相手：碎蜂

主人公と同じ

しんだ時に思い出した

妖精界の扉の守護者

斬魄刀

？風華

始解：風よ我が声に応えよ、風華

うすく刀身に龍が浮き出る



卍解：黄龍迅風華遠

水色で銀の光を放つ黄龍が現れる

元海依の風の守護精霊。

具現化

海依にそっくりだがこっちの方が若干女らしい。

銀髪水色の瞳で中国服着用。

中国で中央を守護する神・黄龍。

「行こう主様」

風車のようなつかの形

？地生

始解：地の力を我に、地生

卍解：地竜五行地ノ章

土色の竜が現れる

元海依の地の守護精霊

具現化

茶髪茶瞳の筋骨隆々とした男

「さっさとしろ海依」

小太刀ほどの刀

花音の対

その他

恋愛に関して男大嫌い。

というより前世は男女すごい半々なせいで性への認識が薄い。

イメージは白か蒼か水色の薔薇。

またその容姿をいかしたモデルで主に男装モデルと変幻自在に声を操る凄腕のベテラン声優として、

モデルは12くらいから声優は8くらいから活動している。仕事名は戒<sup>カイ</sup>。

5歳年下の異母弟・風がいる。

術師の本家大道寺家の娘と如月家の現党主の間に生まれた。

珍しい術者同士のハーフ。

後妻に嫌われてた。

左手人さし指につけている指輪が霊圧制御装置

完全霊圧解放すると、黄龍が左手の甲に浮き出る。

## 5 人衆についてと零番隊（前書き）

サブ主人公三人衆と双子の共通点とか、零番隊について… 等々

## 5 人衆についてと零番隊

霊圧制御装置ついて

つかわれている宝石は

元々は霊石と化した真珠

術師の属性により、宝石が変わる

炎 ガーネット

水 蒼いサファイア

雷 トパーズ

地 ペリドット

風 アクアマリン

強い力を封じ込めるために使い、通常力の制御できない幼児のころからつける。

が5人の場合は

普通の人「一族分家」が玉ひとつ

普通の直系3〜4で完全に押さえ込めるが

10この玉つけても

8割までしか封じ込められなかった。

「これ以上附加できない」

10までなら

玉を濃縮し1こ分の大きさにできる。

そんな5人の

共通点

- ・自らを突き通す
  - ・心に傷・過去を乗り越えている
  - ・裏切り〃なくならない
- しかしなくなつてほしい。
- ・肌でなく魂に刻まれた刻印

ヒロイン達の設定+

義骸を使わなくても、霊圧の調整や構成で実体化できる。

(死神ヒロイン達やオリキャラはもちろん、灰側ヒロイン、魔法側ヒロインも、)

イコール

義魂丸を持ち歩いてもない

語学力について

日本語以外に

海依や皇月、由宇ができるのは アメリカ英語、中国語、フランス語  
卯月はそれ + ドイツ語

美月は卯月 + イタリア語、イギリス英語

である。

(「美月は、依、独、英、米、日、中、仏の七か国語しゃべれて、  
卯月は - 伊、英  
あと3人は - 独である」)

零番隊

正式名御廷十三隊直属特別部隊 零番隊<sup>レイ</sup>

隊花 薔薇

意味「うつろい行くもの

様々な色<sup>シキ</sup>」

隊長羽織(裏) 紅<sup>クレナイ</sup>

副隊長章のようなものが

隊長以外全員にある。

く五席まで後に 四席 金

後の席官銀

で出来ている

零番隊的虚ランク

S × 5 破面ゼロナンバー 1 ～ 7

S × 4 上の 8 ～ 15

S × 3 上の 16 ～ 25

破面 1 ～ 5 エスパイダ

ヴァストローデ

S × 2 6以降のエスパイダ

ヴァストローデ

S それ以外のアランカル

AA アジューカス

A ギリアン 巨大虚

BCD 普通虚

死神でいうと

隊長格は全力で S × 3

零番隊の美月・海依・臯月・由宇は全力で S × 5 と互角程度。  
副隊長は隊によるが S S (恋次) から A A です。



一角さんはSS

かなー

ちなみに

零番隊の5席以下はSSS弱

六番隊三席はSSS弱

で精神状態に大いに影響される

よくも悪くも感情的な面がかかわる

なお等間隔空くのでなく

SSとSSSSやSSSSとSSSSではもう別次元である。

王族特務は零ゼロから参番隊まである

ゼロはレイとほとんどメンバー同じ

壹番隊 - 隊長山吹 空羽クウハ

副隊長：青木輝

貳番隊 - 隊長三上 馨カオル

参番隊 - 隊長佐野 斎イツキ

原作50年前の佐野家当主

輝以外いずれも原作時から今まで一緒

(まだ、名前しか決めていませんが

詳細が決まれば

つけたします、次話に)

## 他オリジナルキャラ

オリジナルキャラ

?青野 輝

享年17

死因 親による虐待

虐待理由 異能

家族（生前の）両親、妹（14下の）

元六番隊副隊長兼現零番隊五席  
恋人に裏切られた過去をもつ。

心を美月に

体を藍染に救われた過去を持つ

美月の願いで空座町で、高校生として潜入

二章で彼女が選ぶのは……………

藍染？それとも美月？

身長：155？

体重：45？

血液型：A型

誕生日：1/2

髪の色：黒 瞳の色：オレンジ

霊気の色：オレンジ

斬魄刀

言霊

始解：虚を現に、ウツロウツツ 現を虚に、ウツロウツロ 言霊

瞳がオレンジから金に変わる

効力範囲は刀を中心に半径50？

卍解 夢幻ノ詞△ゲンのコトバ

どんな言霊を現実にする

また効力範囲は半径2？

だが、理に関する ことは

代価を必要とする

具現化

10？程の妖精で白髪黒瞳。

「ちよつとーしっかりしてよ輝私はあなたが何を選んでも従うから」

？須王 修宇

元十一番隊四席

現零番隊六席

第三章で五席に

見た目 20前後

髪の色：灰色アッシュユ

瞳の色：黒色

身長：175？

血液型：B型

体重：？

誕生日：？だから初めて魅と会った日である3/10

靈気の色：白

冬獅郎とは同期で、まあまあ良好な関係だったのだがあることで険悪に

草冠とも知り合いでいつも一位日番谷 二位 須王 三位 草冠

魅とは幼なじみ

更木出身

斬魄刀

光神

始解：貫け、光神

光属性なので、太陽が出ている時最も力を発揮

卍解は魅と合体卍解

?<sup>カミシロ</sup>神代 魅

元十二番隊三席

現零番隊七席

第三章で六席に

見た目：20前後

髪の色：栗色

瞳の色：焦げ茶色

身長：165？

体重：？

血液型：O型

誕生日：修宇と同じ

霊気の色：黒

桃達と同期

一回生で始解を習得

更木出身で、修宇とあって世界に色がついた

修宇が好き

マッドサイエンテストが大嫌い

整形で見えなくしているがおでこに大きな傷。

マユリの肉体強化の手術をうけた。

そのため、身体能力は隊長格だが、体内などがついていかず、吐血  
することがある。

腕の傷は1回生の時の実習中虚に。

チョーカーをいつも外さないのは下の手術痕を隠すため。左目視力  
が極端になく、

流魂街時代から0・2と悪かったが投薬の影響で0・05にそのた  
め戦闘時眼帯をつける。右目は3・0

零番隊章は腰に巻き付けていて、改造死覇装。

阿散井達と同期

斬魂刀

闇王

始解：全てをおおいつくせ、闇王  
同様に月がでて辺りが闇で覆われている時最も力を発揮

合体卍解

卍解「闇夜ノ月光紳王」

？那智 葵

零番隊八席

第三章で七席に

見た目12、3

髪の色：薄い亜麻色

瞳の色：茶色

身長：150？

体重：？

血液型：AB型

誕生日：7/20

霊気の色：蒼

まだまだ新人の死神

明良とは同期。

流魂街にいたころ三席時代の美月に様々なことを学ぶ。  
そのため尊敬の念をもつ

実は 雛桜家の者らしいが生まれてすぐ死亡したため術はなにひとつ使えない

血筋上 ○○の兄に当たる

斬魄刀

蒼炎

始解：炎く熱するものを全て無にかえせ、蒼炎

刀身を蒼い炎が覆う

氷水く蒼き力を蒼炎

刀の蒼がいつそう色濃くなる二つ同時に使うのは不可

卍解：蒼碧炎氷ソウヘキエンヒョウ

水晶でできたような翼を持つ龍。天龍

中で炎が揺らぐので模様が動くように見える

具現化

藍に近い紫色の髪に赤紫色の瞳の三十路まじかに見える男性。美形。  
実は蒼炎使い・雛桜慧。

水術師と炎術師のハーフ

「こやつは一応雛桜直系だぞ。産まれる前に死んだがのう」

? 佐野 明良



六番隊三席

享年：13

髪の色：赤茶

瞳の色：明るい茶色いや、桃色

薄いオレンジにも見える便宜上桃色で

身長：153?

誕生日：8/23

血液型：AB

霊気の色：薄い赤 桃色

雛桜家の分家・佐野家の次男

美月、卯月、留依のはとこに当たる。

元美月の婚約者

美月を尊敬していて、初恋は留依だったりする

毒舌マシニングアートの持ち主で、

顔立ちはそこらの女の子より愛らしい

初対面は十中八九女に間違える・・・

生前はサッカー部キャプテンであり、U-14に所属していた海依、  
皐月、由宇、風と同じく

聖クロス学園に通っていて頭もいいのでSAだった

サッカーのポジションはFW

これはネタバレだが  
この世界のホイッスルの椎名翼である

斬魄刀

陽翠

始解：紅に染まり踊れ炎よ、陽翠  
形状変化なし。

目に見えない小さな炎を起点に発する色は金と普通の深紅

卍解：太陽炎輪翠彰

ニチリンエンリンスイショウ

いくつもの廻る炎の輪

核が雪の結晶のような形の炎。

これが壊されない限り再生可能。

具現化

一見不良の金髪赤瞳野郎。 関西弁

元守護精霊らしい

「おいおいすっかりしてくれーな姫さん」 でそのあと明良はいつもこう切れる「目が腐ったのかな、それとも頭かなこの馬鹿が」  
「そんなことゆったって姫さんは姫さんやかわいいかわいいの」

?如月 風

サブ主人公3 如月 海依の異母兄弟にあたる。

如月家次期当主

本人は姉を大変したっていたが：  
周りはそれを良しとしなかった

主に女モデルとして”宵”という名で活躍している  
また姉同様声優もやっている。

髪の色：黒

瞳の色：水色

誕生日：1992.12.10

身長：155

未来は170

霊気の色：水色

血液型：A

風術師で如月の次期当主

? 雛桜 留依

美月や卯月の従妹にあたり、  
明良のはとくに当たる

敬語をよくつかい、おしとやか。  
おかつぱ頭が印象的。

いちおう声優で”朱炎”の名をつかう。

髪の色：黒

瞳の色：赤だが薄い。濃いピンク

誕生日：1994.6.12

身長：150

血液型：A

霊気の色：赤紫

紳炎は使えない

。サブのサブ かも

?日向ヒユウガ陽ヒナタ

神無月由宇の唯一兄と認められた異母兄  
8歳上。  
秋生まれ

髪の色：薄い茶色  
瞳の色：黄色

約8年前死亡  
享年16歳  
誕生日：1979・11・15  
血液型：O型  
身長：170cm  
体重：60kg

自らの魂の片割れである守護精霊を妹に託したため、  
斬魄刀を持っていない。

流魂街にいる。

冬獅郎を拾ったおばあちゃんと暮らしている

霊力があり、結界・縛術・鬼道・その他の術は使えるし、弱かった体は、強くなっている

今のところ死神になるつもりはない。

?八城 初音

元由宇達のクラスメイトで妹のような存在  
見た目16、7歳

葵達のクラスメイト。  
茶髪茶目の可愛い系

原作時点では、四回生。

?煌<sup>こう</sup> 未姫<sup>みぎ</sup>

身長：160cm

体重：45kg

中国人と日本人のハーフ

冬獅郎や修宇と同時入学で、女名だが男

生前病弱だったため、色白。

対人関係がダメダメ

でも実力はあったようで、現在七番隊5席

見た目は16、7。

紺色の髪に、漆黒の瞳

## 第一話 我が名（前書き）

私は死んで死神となった。

心残りが無いといえは嘘となる。

それでも、別れてしまった道が再び交わると信じて、私は歩き続ける。

愛する人と仲間達と共に

仲間を守って死んで幸せとかそういうことは、考えない。

共に助かる可能性がどんなに低くても、

0%じゃない限り、

また自分がどれだけ傷ついても絶対に共に助かって見せる

こんな私を大切にしてくれる人のために

## 第一話 我が名

私はその死神・日番谷 冬獅郎に魂葬された。

### 第一話 我が名

「ここが……ソールソサイティー尸魂界。」  
なんか、あっちの方から大きな霊圧をいくつも感じる。  
なんかとても懐かしい感じもする。」

そう自分の世界に没頭しながら  
順番待ちを通り越し勝手に中へと  
自分の感じるままに歩いて行った

霊圧を感じるほうにと。

だが、私は急にとまった。  
なんとなく嫌な自分に害を及ぼすタイプの霊圧を感じたから。  
私はその辺にあった石を拾って、嫌な感じのする所に投げた。



すると下から大きな壁が現れた。  
すべてを拒絶するかのようなオーラを放つ壁が…

「やっぱりね。」

外敵を退けるためのものの類ね…

でもこの向こうっていったい？

守らなければいけないものがあるわけ？

それにこの霊圧…」

冷静に物事を推察する私こと雛桜美月。

「そこは瀟<sup>セイレイテイ</sup>霊廷だよ。」

突然の声に振り向くと、そこには少しわかめのおじさん。

「あなた…誰ですか？」

私が気配に気付けなかったかなりの手練と見える人物

「そりゃあ失礼。僕は享楽春水という者だ。」

それとは裏腹に飄々として軽薄そうに見えるその男が着ているのは、  
さきほどは気付かなかったが、

派手な女物の上着の下にあるものは、死神の着る黒い着物・死覇装。  
それをみて少しは警戒心を解く。

全くの正体不明男ではなくなったから。

でも、私は、彼女は本能的な部分でまだ警戒していた。

「あなた、その服死神ね」

頭が痛い

なぜかくらくらする

「そうだよ。

僕…

私の意識はブラックアウトした。

おそらくは

生前の記憶を全く失わずに

この尸魂界にきたから原因だった。

ドサッ

美月は倒れ

それを瞬歩でよった享樂が支える。

そしてこう疑問を空へと溶かした。

「ちよつと君っ

気を失つてるよ

対して霊圧があるわけじゃないのに

霊圧をここまで正確に感じ取れるなんて

いったい何者なんだい」

そういいつつ

御廷十三隊八番隊隊長である彼は

彼女を抱え、瀨霊廷の中へと入って行った。

IN 八番隊隊主室

「隊長っ

どこにサボって……

誰ですかその子

まさかさらってきたんじゃないですよね」

真面目そうな眼鏡をかけた20代半ば程に見える女性の死神。

「七緒ちゃん ただいまあ

この子？

なんか霊圧ほとんどないのに

瀨霊廷の外から霊圧を感じるとか言ってる

話してたら急に倒れちゃったから連れてきちゃった」

「何が連れて来ちゃったですか

この子の親御（義理）さんが心配したらどうするんですっ

会話を聞いているだけで

享楽さんのいい加減さ

七緒さんの苦勞がにじんでいる。

「仕方ありません

目を覚ますまでここにおいておいてかまいません。

そのかわり、後できっちり総隊長に事情を説明すること。

そしてサボった分の仕事してくださいね」

冷たい眼差しで享楽をにらみつけた。

「ええ」

七緒ちゃん」

はっきりいって情けないことこの上ない。

こうして享楽隊長は七緒さんの言つとおり

美月を別室において

仕事をすることになったのであった…。

美月がいたのは

朱金色の炎につつまれた空間だった。

「……？」

誰もいないその空間でその疑問に答えた声があった。

『……はお主の心の世界じゃ。』

「この声は…朱夏？なんで私は死んだのに」

それは美月にとって、大事な相棒の声

死んだ以上

もうしばらくは聞くことがないと思っていた声

『……そっじゃ』

しかし、この世界では、精霊術師としてのお主の守護精霊として存在しているのではなく、

死神としてのお主の相棒・斬魄刀として存在し共に戦う。

だが、お主の斬魄刀は我だけではない。

あと2本ある。その名前をみつけるのじゃ』

私は嬉しかった。

また再び朱夏と戦えることが

ともにいれることが

”いままで”で”彼女たち”の次に永く一緒にいたのは、まぎれもない彼女・朱夏だったから。

それが私を再び戦いの中に誘うものだとしても…

それに無力で護れないことがどんなに恐ろしいか彼女は

”今まで”にずっと”体験”してきたから

「わかった、朱夏。見つけてやろうじゃない」

私の肯定の返事に対して朱夏は

『よし、ならば…』

朱夏の人型があらわれた。

緋色の中国風の服を着た美月によく似た

10程美月より薄い朱髪朱瞳の少女。

後ろには2人ほどいるが、見えない。

『まず我はとっくにお主を認めておる。

”あの時”からのう。

卍解もできそうじゃな。

卍解はおいおいまた時間のあるときの夢の中でもなんでも教えるとして、

とりあえず、始解の時は、 炎よ散れ朱夏 の言霊を言え』

卍解？

始解？

はっきりいって死神のことは知る必要もなかったから、

正直に朱夏に尋ねた。

「卍解？始解？なにそれ」

すると不思議そうに

『知らなかったのか？  
説明しなかったか？』



おいおい  
いくら私でもしんだ後必要になるかもわからないことには、手を出さないよ

たしかに雑学知識や専門知識は豊富に持つてるが、

とつかこんな早く死ぬなんておもわなかったしねえというふうな思考のすえ

「朱夏私をなんだと思ってるわけ？

私は”万能”じゃないんだからね」

と言っただった。

『斬魄刀には、2つの解放があり、最初の解放を始解、もう1つを卍解というのじゃ。』

一般的に、卍解は始解の5〜10倍の力が出せるのじゃ。

じゃから使えるものは本当に少ない。

自分の斬魄刀の名前すら知らない者も多いようじゃからな。

のため、死神の隊長になる第一条件でもある。

力が使えないより使えるほうがいいじゃろっお主にとっては、  
美月。』

思い出すのは”前世”<sup>むかし</sup>の記憶の1つ。

自分の力の無さを

いやどんなに強い力をもっていても使えなければ意味がないと思い  
知ったときの記憶。

力が引き寄せる者もある。

だけど、…

自分の無力に嘆くのはもううんざりだから

だから私は…

「教えて、あなたが私に貸してくれる力のことを…  
あなたの力の最大限を私は引き出して見せるから」

『美月ならそう思うたぞ。』

私の正解は朱雀七星宿の力を使う

まあ今はとりあえずここまでにしておこうかの。

今は始解で十分じゃろうし

先にお主の事をあやつらに認めさせてやれ。

大丈夫じゃ

美月ならのう』

後ろから来た二人の姿がやっと見える。

一人は女。

白に近い銀髪に、引き込まれるような深い新緑の碧。白い衣がまぶ  
しい

もう一人は、男で、左目に大きな傷跡がある

黒い衣に黒髪に血のような赤い瞳の攻撃的な殺気を放つ人だった。

『あなたが美月？』

先に声をかけてきたのは女の方だった。

「はい。」

あの貴女が私『そうよ。私はあなたの斬魂刀の1つ。

あなたを認めるかはこの質問にいかにかえらるかで決めさせてもらおうわ。

私の納得のいける応えなら、私もあなたに力をかしましょう』

どうやらめんどくさいのが嫌いなようで単刀直入に彼女は言ってきた。

「分かった。私も真剣に答えましょう

あなたの言葉に」

『では聞いわ。

美月あなたは何のために戦うの？』

その言葉を聞いた途端、幼い頃から染みついた言霊が声となって、口から飛び出す。

「我、すべての人が平穩を送れるよう、また時には人たることも忘れず、大切な人を守るために」

精霊術師としての理…

だが無意識に答えたようにみえたのが途中から一変し目に強い光が宿る。

「そう、

ならあなたは、大切な人のために死ねる？」

「それしか方法がないならするかも知れません。

でも、少しでも可能性があるなら、残される人の悲しみを考えて、最後まで足掻きます。

大切な人も、自分も死なないそんな方法を見つけてみせるっ。

こんな私を大切にしてくれる人のために」

それは嘘偽りない言葉…

そして”前世”<sup>むかし</sup>からの教訓

親しい人に残されるのがどんなに辛いかわかる。覚えて”ていいるから

『気に入ったわ。』

私の名前は癒宇<sup>イウ</sup>。

癒しの力を持つ者。

必要になれば、私を呼びなさい。』

癒宇の背中から片方だけ右側に翼が生える。

「ありがとう、癒宇」

そして癒宇は姿を消した。

いよいよ美月は男に向かいあつた

彼は言う

『俺は、朱夏や癒宇のように甘くないぜ。』

お前純粹な殺意を持って人を殺せるか？』

殺人

人を殺すことが悪いことだとかそんなこと言うつもりはない

人を殺すのは覚悟が必要

それが自分の心を削ることだとしても…

きれいごとで生きて行けるほど人は綺麗じゃないから

できる限り人は殺したくない

でも…

「それが大切な人や、自分を守るために必要なら  
自分の手を汚します

（もう汚れているし）」

男は美月の答えに対し

『ハハハ

おもしろえ

とりあえず認めてやるよ

俺を呼ぶときは生半可な覚悟で呼ぶなよ

それでいいなら

俺を呼べ  
俺の名は刹那だ』

癒宇もそして刹那も消え、私と朱夏だけになった。

朱夏が私にこう言葉をかける。

『美月、刹那を試しに使おうとか思わないことじゃな。

刹那はわざと説明を省いたようじゃが、

刹那は諸刃の剣。

少しでも斬るいや殺すことに躊躇いがあれば、自分にダメージが帰ってくる。

本当に殺したいと思った時だけつかえ。

こころするのだぞ』

まるで私のしようとしそうなことを、先読みしたかのような言葉…



いや確かにすこしだけ試してみようかな〜とは思ってたけどね。

いや永年私とつきあってないね うん

「わかったよ」

そうして再び美月の意識は遠ざかっていった。

そして自らの心の世界から現実の世界へ…

紅<sup>アカ</sup>い朱<sup>アカ</sup>い光が収束し、1点へと集まる。

朱い柄の普通と同じか少し長い刀と

反対に懐に仕舞えるほど小さい癒という字が印字されている小太刀と

玄<sup>クロ</sup>のつかで鎖にまかれた普通より長い刀

美月によりそうかのように

それはゆっくり下に落ちた。

彼女の半身、斬魄刀の誕生だ。

その一瞬高まった霊圧の強さに、

隊主室にいた、八番隊隊長享楽 春水や同隊副隊長 伊勢 七緒、

そして離れた一番隊にいた隊長山本元柳斎重國が

その部屋に集まる。

前者2人は、先ほど美月に大した霊圧がなかったからの驚愕で  
後者はその霊圧の根っこがよく知るもう居るはずのない者に似てい  
たため

そして、霊圧はおさまり、もとの抑えた霊圧のに戻った。

そして少女は

美月は目を覚ます。

自分の心の世界から現実へ

あたたかくて冷たい現実の世界へと

「どこどこ？」

あなた達誰？」

開口一番の言葉はそれだった。

「瀟霊廷内だよ。

僕は言ったよね。

この子が僕の副官の「八番隊副隊長の伊勢七緒と言います」…だよ」

「わしは一番隊隊長兼総隊長山本元柳斎重國じゃ

おぬしの名前は？」

「私？」

私の名前は雛桜美月

生前精霊術師でした。」

その美月の言葉に納得したように笑う山本総隊長。

精霊術師…

同じ精霊術師の血を引くなら似ていてもおかしくないから…。

ああこれで決められたサダメへのトキが遠ざかった…

「そうか。精霊術師か」

隊長格なら精霊術師のさわりぐらいなら知っているし、総隊長は直系5家の名くらいは知っている。だからこそ嘘ではないと分かった。

「それならいつまで霊圧を下げておくつもりじゃ？」

総隊長がやっと気づくレベルだったので後2人は驚いた。

「あ、はい」

美月は霊圧を上げる。だいたい死神でいう4席レベルに。

(ハンターの”念”でいうなら、絶からうつすーい纏に)

「これでいい？」

山本総隊長さん？」

「(4席レベルか)∴それで全力か？」

そうとわれ

彼女は考えた。

>

本当のこと言っているのかな？

ぶっちゃけ1割弱くらいなんだけど。

封印状態で…

うんごまかすの決定―  
なんかいやな予感するし

<

という具合だ  
封印状態というのはまた追って話そう。

「さあどうかな」  
「ほう 1割のう」

年の巧で読み取られたようで  
思わず美月は天然で黒化する…

「天然だから恐ろしい―  
バイ 月」

「心読まないで（微黒笑）

そうじゃないと目潰れちゃうよ  
「はつきりいって怖い。  
のだが飄々と

「細かいことを気にするな。  
さてどこかの隊の3席にでもするかのう。」

まさに年の功ほどに厄介なものはないのだ…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1849z/>

---

死神達の恋歌 ～月の導き～

2011年12月17日02時02分発行